

【表紙】

虎ちゃん日記 全四巻

乞必御返却 大阪毎日新聞社

【表紙 裏】

【1頁】

(十六ミリ)

虎ちゃん日記

全四巻 四六一米

台湾総督府

P第一二七一号

検閲済

有効期間

自昭和十七年十二月十八日

至昭和二十年十二月十七日

活動写真「フィルム」検閲

規則第十条第二項ニ依リ

手数料ヲ免除ス

【2頁】

【3頁】(1頁)

虎ちゃん日記 全四巻

梗概

夏休みになった日村の子供虎ちゃん源ちゃん喜三ちゃん達が河原で遊んでみると先生が村を出て行くのを入れ違ひに東京から保養のために敬ちゃんが姉さんに連れられて新屋敷にやってきた村の子供達の夏休みの日課は毎日トンガリ山の草刈に始まる虎ちゃんと喜三ちゃんは草刈場の近くの藪の中に山ぶどうを見つけて皆には内証でその色づくのを楽しみにしてゐたが餓鬼大将の源ちゃんに嗅ぎつけられて何時の間にかみんな食べられてしまったカンカンになった虎ちゃんと喜三ちゃんは源ちゃんに打ってかかるが落ちてゐた草刈鎌のために源ちゃんの足に大怪我をさせてしまふお父さんに叱られた虎ちゃんは源ちゃんの家へ謝りに行くが入り損ねて家へも帰れず犬のコロを連れてボンデン沼の中島で一夜を明かすこのことを知った源ちゃんは却って心配して虎ちゃんに見舞の手紙を送ったので虎ち

ちゃんも源ちゃんのとこへ遊びに行くようになり二人は仲よしになる、そして仲間

【4頁】

のわのにいちめられてみた敬ちゃんを二人で助けてやるそれから間もない或る日虎ちゃん源ちゃん敬ちゃんの三人は虎ちゃんのお父さんに中島へ連れて行ってもらひ釣をして楽しい一日を過ごすはその時はもう夏休みも終りに近かった霧の深い朝敬ちゃんは東京へ帰って行った虎ちゃんと源ちゃんは村端れの橋の上まで見送ったが二人も大きくなったら東京へ行きたいと思ったそこへ先生が帰って来たので三人は歌をうたひながら霧の中を村の方へ帰って行く

梗概了

【5頁】

第一巻

(字幕)

1. 東日大毎学校巡回映画聯盟作品。
2. 虎ちゃんの日記。
3. 製作提供。東京日日新聞社。大阪毎日新聞社。
4. 原作。千葉育三。脚色宮津博。下条吉次郎。演出高木俊朗。撮影栗林実。
5. 製作担当。富士スタジオ。出演。劇団 東童。
6. 虎ちゃん 小泉忠
虎ちゃんのお父さん 西島涕四郎
虎ちゃんのお母さん 舟木敦子
源ちゃん 星野 和正
7. 敬ちゃん 大泉晃
敬ちゃんの姉さん 外山和子
喜三ちゃん 渡辺博
作男 北林厚
先生 青沼三郎
8. 八月一日今日から夏休みだ
9. ああ先生だ

【6頁】

10. 夏休みで皆ともしばらくお別れだな。みな嬉しさうだな。源ちゃんはどうか
11. うん。とても嬉しいんだ

- 12 虎ちゃんは？
- 13 嬉しいや。おら。ボンデン沼へ行つて泳ぐんだ
- 14 田舎の夏はいいそがしいからな。みんなよく家のお手伝ひをするんだぞ
- 15 うん。おら達毎朝草刈やるんだ
- 16 ぢゃあ。ひと月元気で暮すんだぞ
- 17 敬ちゃん。とてもいい所でせう。ここで一夏暮せばほんとに丈夫になりますよ
- 18 どっから来たんだろ
- 19 東京からだぞ。きつと……
- 20 おらと遊ぶもの。こっちへ来オー。
- 21 な虎ちゃん昨日見つけたトンガリ山の。山ブドウ。明日とりに行かうな。
- 22 喜三ちゃん。とおらと二人きりだぞな。
- 23 八月三日。朝早くトンガリ山の村の共同開こん地へ草刈に行った
- 24 早く山ブドウを見に行くべや
- 25 うまいけ。
- 26 まだ酸っぱいや。けど。うめいや
- 27 もう十日も置いとくべいや
- 28 だめだぞオー。この山ブドウ、喜三ちゃんとおらとで見つけたんだぞ

【7頁】

- 29 ふふん。そんな酸っぱいの。ほしかねえぞ。
- 30 酸っぱかねえや。やらねえよ。
- 31 へッ。いらねえや。
- 32 見つかったな。
- 33 大丈夫だよ。源ちゃんなんか。
- 34 ちえッ。へたなの。
- 35 な。いい子だ。東京の坊っちゃんと遊べよな。
- 36 坊っちゃん。この二人を仲間にしますべ。
- 37 うん。遊ぼうよ僕敬一っついふんだよ、君は何といふの。
- 38 おら虎ちゃんっついふんだ。
- 39 おら喜三ちゃんだい。
- 40 仲よく遊べな。
- 41 いやだーい。東京の子は女みたいだからいやだーい。
- 42 八月五日。日まわりの花がたくさん咲いて。とてもきれいだ。裏のとうもろこしは。ぢ□たべられる
- 43 君なの。お入りよ。
- 44 それ動くのけ。

- 4 5 . 敬ちゃんはいいな。いろんな玩具があるで……
- 4 6 . 虎ちゃんはどんな玩具があるの。

第一巻 終

【8頁】

第二巻

(字幕)

- 1 . おら犬つころがある。コロって名だよ。
- 2 . いいねえ。それから？
- 3 . それから。金石があら。
- 4 . それから。水晶に白墨に。時計の歯車があら。
- 5 . 今な来る時持って来て見せべ。
- 6 . いらつしゃい。仲よく毎日遊んでちょうだいね。
- 7 . おら。また来ようつと。
- 8 . 虎。新屋敷の坊っちゃん。病気だつて話だぞ。
- 9 . あんまり遊びに行くでねえぞ。
- 1 0 . 八月十日。山ぶどうを見つけてから十日になるもうたべられるかも知れない。
- 1 1 . 山ブドウうまくなつてるべ。とりに行かうけ。
- 1 2 . 山ブドウ一つもねえぞ。きつと源ちゃんだぞ。
- 1 3 . ヤイ。源公おいらの山ブドウを盗ったのはお前だな。
- 1 4 . おら知らねえ。山ブドウは猿だつて食はあ。
- 1 5 . フン。猿は猿でもそこの赤猿だんべ。
- 1 6 . 赤猿とは誰のことだ。
- 1 7 . なんだ。自分が悪いくせに。
- 1 8 . 痛いか。源ちゃん。かんべんしてくんな。

【9頁】

- 1 9 . おらが。したんでねえぞ。
- 2 0 . おらがしたんでねえぞ。
- 2 1 . その日の午後
- 2 2 . そのカップといふの。ボンデン沼にもあるのかい。
- 2 3 . 居りますともさ。ひとりで行くと。おつかねえですぞ。
- 2 4 . これやろう。
- 2 5 . オーイ君。遊んで行かないの。
- 2 6 . どうしたんだらう。
- 2 7 . 虎！お前なにした。源ちゃんに。あんな大けがさせて。なんちつて謝る気だ。

28. そんなに怒らねえでも。虎さあ家へ入れ。
29. 家へ入っちゃなんね。源ちゃんの家へ行つ謝つて来ねえうちは決して入らせねえぞ。

30. 虎―謝つて来ねえと承知しねえぞ。
31. 源ちゃんの家。誰もゐねえらしいな。どうしよう……

第二巻 終

【10頁】

第三巻

(字幕)

1. コロお前も連れてつてやんべな。おらとお前と二人で島で暮すんだぞ。
2. 八月十一日。けさ目がさめた時には自分がどこにゐるのかわかんなかった。
3. あッお父ちゃん。
4. 虎―。
5. 虎さこれをたべろ。
6. 虎うめえか。
7. うん。うめえや。
8. 八月十五日。今日はおぼんで草刈も休み。一日中うれしいことばかりだった。
9. おなほちゃん。何しに来たの。
10. これ。うちの源が虎ちゃんにつて。
11. 拝啓。私は足がよっぽどよくなつて。毎日たいくつでしようね。僕今日遊びに来て下されたく候。虎ちゃんが見えなくなつたときいた時には。みんなたまげ大いに心配致し候私の父ちゃんも。母ちゃんも怒つてゐないから。どうか遊びに来て下されたく候
岡田虎□様 小山源作

【11頁】(5頁)

12. お母ちゃんおら。源ちゃんそこへ行つてくるぞオ。
13. 足まだ痛いけ。ごめんよ。
14. おら。山ブドウ盗つたの。ごめんよ。
15. いいさ。また見つけるからな。まだ歩けなかんべな。
16. 歩けるとも。もうなんともねえよ。
17. ほんとだ。よかつたなア。
18. あすこに蜂の巣を見つけないんだ。足がなほつたら取つてくれべと思つて。
19. その時は虎ちゃんも手伝つてくれな。
20. 手伝ふともその時敬ちゃん連れて来て見せてやるべ。
21. 敬ちゃんて誰さ。

22. 東京の子さ。足がなほつたら、いつしよに遊びに行くべ。面白い玩具たくさんあるぞ。
 23. さうか。ぢや今度つれてつてくれ。な。
 24. 虎ちゃん。仲よくしてやつてくん。な。
 25. 八月二十日。夕方源ちゃんと二人で新屋敷へ遊びに行った。
- 第三巻 終

【12頁】

第四巻

(字幕)

1. 家なかベンケイ。ぐづベンケイ。おいらがそんなにおつかねえか外へも出られねえ。やあいやあい。
2. 何するんだ。
3. なんてえ。東京の弱虫ことひいきしとんでえ。
4. お前らが弱虫だ一人の子を大勢でいぢめるの卑怯っちんだぞ。
5. やい！喧嘩する気か。くんなら。かかつて来い。
6. 虎ちゃんの悪たれボンテン沼へ夜逃げして。お父ちゃんに叱られた。やあいやあい。
7. 泣くなよ敬ちゃん。ほら源ちゃんも遊びに来たぞ。
8. 大丈夫だよ敬ちゃん。おら達がいつでも助けてやるからな。おら達五年生ぢや一番強いんだよ。
9. 今度三人で中島へ行って見ようや。お父ちゃんにさういつて舟出してもらうからな。
10. 八月二十三日。とうちゃんは此頃ちつとも叱らなくなった。今日はボンデン沼の島へつれてつてくれるといふ。
11. 源ちゃんすつかりよくなつたな。よかつたな。
12. 敬ちゃん。なかなかうまいな。
13. 東京でいつも釣つてるの？
14. 僕始めてなんだよ。東京にはこんな沼や川がないんだもの。

【13頁】

15. それにしちやうまいな。今度また来ようや。
16. うん。でも僕もうぢき帰っちゃうんだもの。
17. 帰るつて。いつ帰るのけ。
18. もうぢきさ。
19. ふうん。そんなら帰る日まで。毎日つりに来ればいいぢやないか。
20. とれた魚はみんな敬ちゃんにやるよ。源ちゃん。いいだろ？
21. ああ。いいとも今日のだつてみんなやつちまはうよ。

22. 『ありがたう。僕みんな東京へ持ってかへって。大事に生かしくよ。』
23. 『ほんとに生かしくしてくれ。なそして。来年の夏また魚とりにお出でよな。』
24. 『ああ。きつと来るよ。』
25. 八月二十九日。夏休みもおしまひだ。敬ちゃんは。けさ東京へ帰るといふので村はづれの橋のところで見送る。
26. 『さようなら。来年の夏またきつと来るからね。』
27. 『さようなら。きつと。又おいでよ。待ってるぞな。』
28. 『虎ちゃん。源ちゃん。さようなら。』
29. 『敬ちゃんは東京へ帰るのが嬉しかんべな。あんなに嬉しげに行つたもん。』
30. 『東京って。いいとこだべな。おらも行ってみてえな。』
31. 『おらも行ってみてえや。』
32. 『この川は東京の方さ流れて行くんだっちな。』
33. 『そだ。だから今した小便も東京さ行くぞ。』
34. 『そんちや。おらが先にしたから。おらの方が早く行くぞ。』

【14頁】

35. 『こらこら。お前ら。そんなところへ小便するもんでないぞ。』
36. 『先生。今帰って来たの?』
37. 『うん。もう直ぐ学校が始まるからな。』
38. 『夏休みは面白かったか。学校が始つたら。またよく勉強するんだぞ。』
39. (おしまひ)

完

【データ採録者…福田隆宏】

【データ校正…笠原亮介】